

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2023年6月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2023年6月9日～6月30日
- 調査対象 200社
- 回答企業 134社
- 回収率 67.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の6月の状況を見ると業況DIは、前月より0.8ポイント改善の▲19.4となった。

2017年9月以来70ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲15.0、当月と比べ4.4ポイントの改善が見込まれる。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 2023年7月～ 2023年9月
業況	▲23.8	▲31.0	▲24.5	▲18.8	▲20.2	▲19.4	▲15.0
売上	▲5.5	▲8.0	▲4.9	5.3	8.5	2.2	▲4.5
採算	▲25.4	▲31.0	▲23.7	▲21.0	▲20.9	▲17.9	▲13.5
仕入単価	▲69.8	▲69.0	▲67.2	▲68.4	▲67.4	▲67.1	▲56.8
販売単価	29.3	31.8	29.5	28.6	31.8	32.8	26.1
従業員	31.7	30.9	31.1	33.1	29.4	32.8	37.3
資金繰り	▲15.1	▲18.2	▲17.2	▲7.5	▲10.1	▲11.9	▲13.4

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 2023年7月～ 2023年9月
建設	▲51.8	▲65.5	▲53.6	▲20.7	▲39.3	▲35.7	▲25.0
製造	▲19.3	▲27.6	▲32.1	▲20.0	▲23.4	▲25.8	▲22.6
卸売	▲7.4	▲16.7	▲10.3	▲9.4	▲10.0	▲9.7	▲9.7
小売	▲18.7	▲29.4	▲11.1	▲4.4	▲14.3	▲22.7	▲22.8
サービス	▲17.4	▲9.5	▲5.3	▲47.3	▲10.0	0.0	9.1

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比し公共工事の発注状況が低調であり受注残が減少。2024 年時間外上限規制を見据えた各種施策の効果検証を行っているも、現時点においては考課が薄く憂慮すべき状況。賃上げ実施による人件費の増加のため収益の低下が懸念される。（総合工事） ・工事受注は下げ止まり状況が続き依然として低空飛行である。工事作業に係る人員の再配置により自社での作業割合を増やしたことで外注先への発注減が発生している。また、物価上昇に見合った価格転嫁ができておらず、今後も見込めないことから収益面は厳しい。しかし、このような中でも人材については、将来を見据え即戦力(資格保有者)と若い人材の確保を積極的に進めている。（設備・その他） ・資材単価は高止まり感もあるが安定してきている。木材・ベニヤは多少下がりがつつある。従業員については大工・現場管理者の不足感がある。（建築業）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・為替円安に伴う仕入原材料単価の上昇と燃料・電力値上げに伴う経費増加。価格改定に伴う出荷量減少。（食料品） ・4 月に実施した価格改定による駆け込み需要が現在も受注残としてあるのが現状。（家具・木材） ・3月4月業績良好に推移するも、その後はコロナ期に近い状況で推移。なかなかコロナ前の業績まで回復せず厳しい経営が続いている。（家具・木材） ・仕入れ単価の高止まりで下がる見通しは全く無い。受注単価が少しでも上がる様、努力が必要。（金属窯業他）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・得意先の減少(廃業・チェーン店の閉店店舗増)。円安のため、物作りができず仕入が減少。コロナの特需(マスク等々)の売上げ分をカバーできなかった。（繊維・衣服等） ・先般の鳥インフルエンザの影響のため、入荷量が前々年対比 30%強、減っており稼働率が下がっているため採算が悪化。全国的に入荷量の減少に伴い、製品の品不足のため価格は上昇。（飲食料品） ・前年度と比較すると売上は多少増加している。仕入単価は相変わらず上昇しているが今のところ価格転嫁ができていない。（機械鋼材） ・灯油に対する補助金が縮小されており、仕入価格が上昇傾向にある。上昇の幅次第では、販売価格も上昇すると思われる。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・6 月に入り気温も高くなり夏物商品(半袖物)が少しずつ動き始めているが、来店客がまだまだ少なく商品単価が低いいため、売上が取れない。毎月厳しい。（衣服身回品） ・観光需要の影響で引き続き増収傾向。しかし、原材料・光熱費等の高騰が利益計上を阻害。昨年より商品価格値上げを実施しているが、追いついていない。昨期と違い収益確保が難しい。（食料品） ・国の燃料油激変緩和補助金減額により仕入価格が上昇しているが、小売価格への転嫁が遅れている。人件費増や電気料金値上がり分により経費が増えており、生産性の改善が遅れている。（その他） ・前年と同様、昨年に比べ原価が高く、一般管理費に該当するものの単価も上がっているため、売上が上がっても利益率を向上させるのは難しいと判断する。（自動車）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・6月集客売上ともに2019年対比で85%。前年では112%。6月15日返は集客に苦しみ、15日(年金支給日)以降はぼちぼち集客が良い。（理美容・クリーニング） ・コロナ禍が明けてやっと通常に戻ってきた。単価も上昇のため売上好調。だがスタッフ不足は引き続き続いている。（ホテル・旅館） ・コロナ5類に移行はしたが、ここ数ヶ月で社内及び取引先においても感染者は増加傾向にあり、これからも感染対策をしっかりと行うことが大切である。（その他） ・外国人の観光客が戻ってきており、売上が上昇してきているが、仕入価格の値上げが今後も続くのが心配。（飲食） ・足元の採算性は良くなってきており、今後一層の期待をもって進められると考えるが、ここ3年間での借入金の返済負担は大きく、資金繰りが厳しい。この厳しい状況が数年間は続くことが想定され不安大。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI17.8 ポイント悪化、採算 DI14.3 ポイント悪化、仕入単価 DI7.1 ポイント改善、販売単価 DI 横ばい、資金 DI10.7 ポイント悪化、従業員 DI7.1 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 3.6 ポイント改善が見込まれるが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、設備・その他横ばい、総合工事、建築業 14 ポイント改善となった。現時点での資機材単価について、購入単価は設計単価に追いついているが、今後の価格高騰次第で利益圧迫の可能性がある。ラピダス・JRTT 等の大型工事による資機材の不足・価格高騰が懸念されるとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI13.3 ポイント悪化、採算 DI10.3 ポイント改善、仕入単価 DI8.8 ポイント改善、販売単価 DI11.1 ポイント悪化、資金 DI0.4 ポイント改善、従業員 DI0.4 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 2.4 ポイント悪化となった。業種別では、印刷・出版 20 ポイント、金属窯業他 11 ポイント改善、食料品 13 ポイント、家具・木材 17 ポイント悪化となった。コロナも 5 類に移行し、経済活動が活発化してきているように感じる。今月開催した展示会にも多くの人々が来場され、これからの受注に期待しているとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI6.7 ポイント悪化、採算 DI6.8 ポイント改善、仕入単価 DI14.4 ポイント悪化、販売単価 DI2.2 ポイント改善、資金 DI3.5 ポイント改善、従業員 DI2.6 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 0.3 ポイント改善となった。業種別では、繊維・衣服等 20 ポイント悪化、食料品、その他横ばい、機械鋼材 11 ポイント改善となった。当月の売上は大きな受注を獲得するも、前年同期からみて若干の減少。秋口から仕入れ価格が上がる見通しから、現在予約の受付をしている。今後の業況については、大きな変動がないものと思料するとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI27.9 ポイント改善、採算 DI10.5 ポイント改善、仕入単価 DI6.5 ポイント悪化、販売単価 DI8.1 ポイント改善、資金 DI4.4 ポイント悪化、従業員 DI2.8 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 8.4 ポイント悪化となった。業種別では、衣料品横ばい、食料品 3 ポイント、その他 7 ポイント、自動車 17 ポイント悪化となった。定昇込ベースアップ上昇を実施。今後の人件費高止まりを利益でいかに吸収していくか課題との声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI19.6 ポイント悪化、採算 DI 横ばい、仕入単価 DI6.4 ポイント改善、販売単価 DI10.5 ポイント改善、資金 DI11.8 ポイント改善、従業員 DI4.6 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 10.0 ポイント改善となった。業種別では、理美容・クリーニング 50 ポイント悪化、その他、飲食横ばい、ホテル・旅館 40 ポイント、整備業、運送 50 ポイント改善となった。忙しくなっているが原材料高・人件費高により利益の確保が難しくなっているとの声も寄せられている。</p>